【解説】発達・精神障害のある方の就業実態調査 2024年度版

2025年6月3日　速報版

報告者：筑波大学人間系准教授　佐々木銀河
E-mail： sgalaxy@human.tsukuba.ac.jp



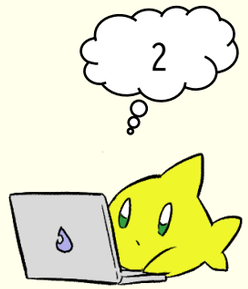
これまでの就業実態調査

2017年度～2021年度まで：Kaienによる実施

- https://www.kaien-lab.com/tag/%E5%B0%B1%E6%A5%AD%E5%AE%9F%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB/

2022年度から筑波大学とKaienの共同研究で実施

- 大学が協働することでのメリット
  - 発達障害のある方の就業実態を学術的により精緻に調査できる
  - 大学を基点にて、競合関係にある他事業所とも協力した実態調査ができる　など
- 各年度で「調査テーマ」を設定
  - 2022年度テーマ「発達障害のある就業者の障害開示と職務満足度」
    - https://www.kaien-lab.com/staffblog/jittai2023/
  - 2023年度テーマ「発達障害のある就業者の読み書き困難」
    - https://www.kaien-lab.com/information/2023employmentstatussurvey/
- 調査項目の設計などを協働して実施→筑波大学で分析
  - **公益性が高く、速やかに示した方が良いような結果はWEB公開　※今回**
  - 学術的に精緻な検証が必要な内容は、学会発表や学術論文で根拠（エビデンス）を示す（発表までは非公開）



2024年度の調査計画

調査テーマ：発達・精神障害のある就業者の「生成AIの利用状況」

調査期間：2025年1月31日～2025年3月2日

調査方法：WEB調査（Google Form）

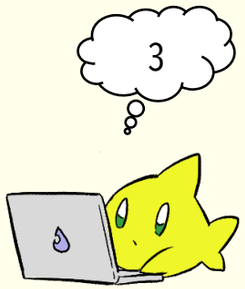
調査依頼方法

- SNS（X：Twitter、Facebook等）での周知
- 筑波大学から就労支援関係の各事業所等に機縁法で依頼
- KaienからWEBでの周知および自事業関係各所への依頼

調査内容の設計

1. 研究者で原案を作成
   - 特定の事業所に特化した項目はなるべく取り除いた
   - 心理尺度は、回答結果の信頼性の担保のため、アテンションチェック項目を加えた
2. Kaien従業員・利用者等に予備調査を実施し、質問項目を修正
3. 筑波大学人間系研究倫理委員会の審査・承認を得て実施

Contributor
岸良隼人さん、長谷川福子さん、
藤田麻梨子さん、佐藤仁美さん、
宮西眞杏さん、渡辺陽さん、
堀口里奈さん、樫原輝さん、
後藤光正さん



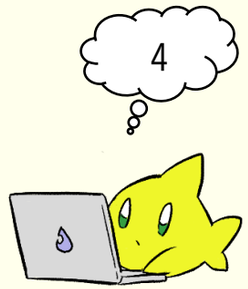
2024年度の調査計画

調査目的

- 発達・精神障害のある方は仕事やプライベートで生成AIをどのように利用しているのか？
  - 今回、公開する内容は、回答結果の単純集計やテキストマイニングの結果を中心とします。
- 障害種別や業務内容、生成AI利用の依存度等との関連
  - 学術的研究として学会発表や論文投稿を予定（現時点で非公開）

対象者

- 18歳以上で発達障害や精神障害の診断や傾向があり、現在、就業中の方（就労移行支援、就労継続支援を利用中の方も対象）
  - 今回は、発達・精神障害の医学的診断あり、の方を分析対象とした



調査項目

A：フェイスシート　－ 年齢、性別、居住都道府県、最終学歴、最終学歴の専門分野、障害者手帳

B：発達・精神障害の状況

- 診断を受けている発達・精神障害の名称、傾向が指摘された障害名、その他の医学的診断

C：就業の状況

- 就業の有無、働き方、業種、職務内容、勤務形態、1週間あたりの勤務時間、1週間あたりの勤務日数、年収、職場での状況や雇用形態、仕事／プライベートにおける端末やネットの利用状況

D：生成AIの状況

- 利用の有無、過去1ヶ月に利用したサービス名、有償利用の有無、仕事／プライベートでの利用、利用する端末、利用日数、用途、利用する時、テキスト入力の表現
- 生成AIを利用するときの工夫、感じること、仕事／プライベートで便利だと感じる点、仕事／プライベートで不便な点や改善が必要と感じる点、職場での生成AI利用のルールやガイドライン
- 生成AIを利用したことがない理由

E：生成AI依存傾向測定尺度

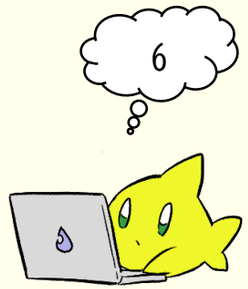
- 「高校生・大学生向け生成AI依存傾向尺度」を就業者用に軽微な項目改変
- 鶴田利郎・石川久美子・田中博之（2023）. 高校生・大学生向け生成 AI 依存傾向測定尺度の開発. AI 時代の教育論文誌, 6, 40-45.



有効回答数

- 全回答データ808件のうち、以下を除いた665件（人）
  - 研究データ利用への同意がない回答
  - 入力事項の重複が見られ同一人物と推測される回答
  - 条件を満たさない回答（発達・精神障害の診断なし、就業経験なし、18歳未満）
- 以降は、665名のデータについて分析結果を示します

- また、今回の結果は「速報版」として暫定的な結果をできる限り早めに報告するものとなります
- 今後の分析作業によって示しているデータに変更が加わる場合もあることをご了承ください



記述統計：回答者の属性（全数：665人）

性別	人数	（%）
男性	310	（49.7%）
女性	307	（49.3%）
その他	6	（1.0%）

最終学歴	人数	（%）
中等教育	109	（16.6%）
大学以外の高等教育	100	（15.2%）
大卒以上	431	（65.5%）
その他	18	（2.7%）

最終学歴の分野（上位５件）	人数	（%）
社会科学	189	（32.0%）
人文科学	128	（21.7%）
工学	78	（13.2%）
芸術	58	（9.8%）
理学	42	（7.1%）

発達・精神障害の医学的診断	人数	（%）
発達障害の診断あり	567	（86.7%）
精神障害の診断あり	364	（55.7%）

発達障害に関わる診断名（上位５件）	人数	（%）
ASD（自閉スペクトラム症）	413	（63.2%）
ADHD（注意欠如多動症）	337	（51.5%）
LD/SLD（学習障害/限局性学習症）	14	（2.1%）
DCD（発達性協調運動症）	11	（1.7%）
ID（知的障害/知的発達症）	15	（2.3%）

精神障害に関わる診断名（上位５件）	人数	（%）
うつ病	174	（26.6%）
不安症	80	（12.2%）
双極症	77	（11.8%）
抑うつ症	63	（9.6%）
睡眠障害	45	（6.9%）

障害者手帳	人数	（%）
精神障害者保健福祉手帳	572	（87.3%）
療育手帳	25	（3.8%）
身体障害者手帳	14	（2.1%）
障害者手帳所持なし	43	（6.6%）



記述統計：就労状況（全数：665人）

働き方	人数	（%）
正社員（休職中含む）	179	（27.1%）
パート・契約社員、派遣社員	254	（38.4%）
経営者、自営・家事手伝い、内職	27	（4.1%）
就労継続支援	78	（11.8%）
就労移行支援	112	（16.9%）
その他	11	（1.7%）

特例子会社での就労	人数	（%）
特例子会社での就労	53	（8.7%）
非該当	558	（91.3%）

採用・求人枠	人数	（%）
一般枠	99	（16.2%）
障害者求人枠	292	（47.8%）

発達障害の開示	人数	（%）
開示あり	339	（55.5%）
開示していない	272	（44.5%）

業種（上位５件）	人数	（%）
情報通信業	103	（17.8%）
医療、福祉	82	（14.1%）
サービス業	69	（11.9%）
製造業	53	（9.1%）
卸売業・小売業	33	（5.7%）

業務内容（上位５件）	人数	（%）
事務的職業	286	（51.2%）
研究・技術の職業	46	（8.2%）
福祉・介護の職業	32	（5.7%）
運搬・清掃・包装・選別等の職業	31	（5.6%）
サービスの職業	19	（3.4%）
製造・修理・塗装・製図等の職業	19	（3.4%）

職場での合理的配慮	人数	（%）
合理的配慮あり	379	（62.0%）
なし	232	（38.0%）



記述統計：属性・就労状況（全数：665人）

項目	件数(N)	平均値(標準偏差)	中央値	範囲
年齢	631	36.48 歳 (9.54)	35 歳	20 - 63
1週間あたりの勤務時間	593	32.06 時間 (11.56)	35 時間	3 - 92
1週間あたりの勤務日数	613	4.76 日 (0.70)	5 日	1 - 7
現在の仕事の年収	539	231.39 万円 (175.86)	216 万円	0 - 1400

仕事で使用する端末	人数（%）	
就業先から支給されるパソコン	509	(84.1%)
就業先から支給されるタブレット	39	(6.5%)
就業先から支給されるスマートフォン	95	(15.7%)
私物のパソコン	83	(13.7%)
私物のタブレット	34	(5.6%)
私物のスマートフォン	22	(3.6%)

仕事のネット利用（上位５件）	人数（%）	
メールを読む・書く	440	(75.2%)
ブログやウェブサイトを見る・書く	317	(54.2%)
遠隔会議システムやビデオ通話利用	307	(52.5%)
印刷物の電子版を見る	178	(30.4%)
ソーシャルメディアを見る・書く	84	(14.4%)

プライベートのネット利用（上位５件）	人数（%）	
動画投稿・共有サービスを見る	515	(78.9%)
ブログやウェブサイトを見る・書く	500	(76.6%)
ソーシャルメディアを見る・書く	476	(72.9%)
メールを読む・書く	441	(67.5%)
オンラインゲーム・ソーシャルゲーム	271	(41.5%)



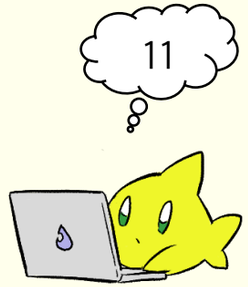
発達・精神障害者と
生成AIの利用



今回の報告の留意点

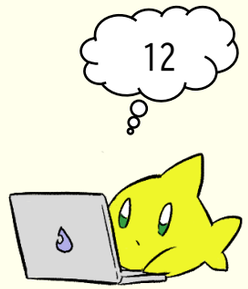
留意点

- 今回、調査にご回答いただいた集団の概要を表しています
  - 調査に回答してない方（言語が苦手な方など）には言及できません
  - もし回答内容に間違いがあっても、その内容を反映しています



Q&A　もくじ

Q1：発達・精神障害者の生成AI利用状況は？
Q2：「仕事」での生成AI利用の便利な点は？
Q3：「仕事以外」での生成AI利用の便利な点は？
Q4：「仕事」での生成AI利用で不便な点や改善点は？
Q5：「仕事以外」での生成AI利用で不便な点や改善点は？
Q6：生成AIを利用するときに工夫していることは？
Q7：職場でのルールやガイドラインは？
Q8：生成AIを利用しない人の理由は？



Q1：発達・精神障害者の生成AI利用状況は？

利用経験の有無	人数	（%）
生成AIを利用したことがある	**497**	**（76.8%）**
利用したことがない	150	（23.2%）

過去1ヶ月に利用した生成AI	人数	（%）
ChatGPT	366	（70.0%）
Claude	47	（9.0%）
Google Gemini（Bard）	180	（34.4%）
Copilot（Bing Chat）	147	（28.1%）
過去１ヶ月の利用なし	41	（7.8%）

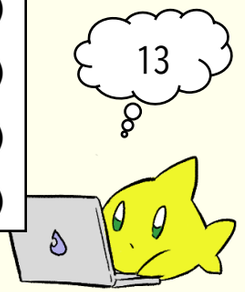
生成AIの有償利用	人数	（%）
私費で有償利用	68	（13.8%）
就業先等で有償利用	65	（13.2%）
無償利用	348	（70.4%）
その他	13	（2.6%）

生成AIの利用シーン	人数	（%）
仕事とプライベートの両方	233	（47.4%）
仕事のみ	45	（9.2%）
プライベートのみ	212	（43.1%）

生成AI利用のルール・ガイドライン	人数	（%）
職場でルールやガイドラインがある	175	（36.8%）
ない	152	（31.9%）
わからない	149	（31.3%）

生成AIを使用する端末	人数	（%）
就業先から支給されるパソコン	246	（47.9%）
就業先から支給されるタブレット	4	（0.8%）
就業先から支給されるスマートフォン	14	（2.7%）
私物のパソコン	248	（48.3%）
私物のタブレット	61	（11.9%）
私物のスマートフォン	320	（62.3%）

1週間での生成AIの利用日数（上位５件）	人数	（%）
週１日以下	182	（37.3%）
週２日	87	（17.8%）
週７日（毎日）	77	（15.8%）
週３日	72	（14.8%）
週５日	31	（6.4%）



Q1：発達・精神障害者の生成AI利用状況は？

生成AIの用途	人数	（%）
情報検索や知識を得る	357	（68.5%）
アイデア出し・ブレインストーミング	254	（48.8%）
データ収集・調査・分析	150	（28.8%）
会話相手・相談相手	176	（33.8%）
学習・勉強の補助（語学学習も含む）	140	（26.9%）
議事録作成	38	（7.3%）
資料や文書の作成	147	（28.3%）
プログラミング	108	（20.7%）
画像・動画・音楽作成	84	（16.1%）
文書の翻訳・要約	172	（33.0%）
自分が作成した文書の添削	183	（35.1%）

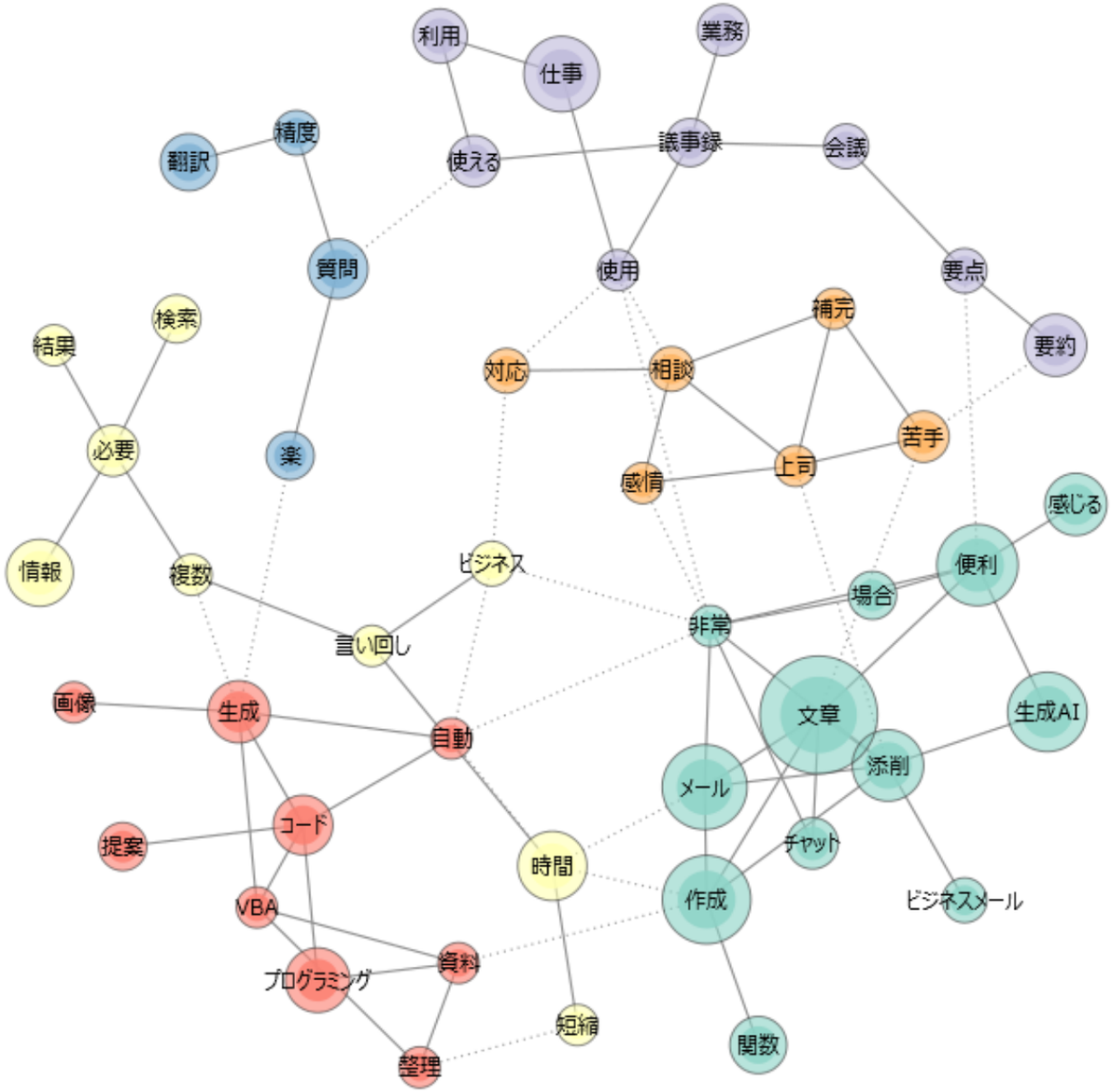
生成AIの利用タイミング	人数	（%）
仕事で、知りたいことが出た時	277	（53.6%）
仕事で、自分の特性やタイプに関連した困ったことが出た時	119	（23.0%）
プライベートで、知りたいことが出た時	343	（66.3%）
プライベートで、自分の特性やタイプに関連した困ったことが出た時	179	（34.6%）

生成AIへのテキスト入力の表現	人数	（%）
検索エンジンのように、思いついたキーワードや単語を入力することが多い（例：「風邪 治し方」）	81	（16.6%）
自分の求めていることを文章で入力することが多い（例：「風邪を治したい」）	182	（37.4%）
人に話しかけるように、会話口調で入力することが多い（例：「風邪の治し方を教えてくれる？」）	203	（41.7%）

生成AIに対して感じること（上位５件）	人数	（%）
将来は日常の一部になっていくものである	264	（50.6%）
まだまだ精度が低い	257	（49.2%）
人間の思考を補完してくれる	254	（48.7%）
仕事の生産性を高めてくれる	254	（48.7%）
プライバシーやセキュリティに関する懸念がある	227	（43.5%）



Q2：「仕事」での生成AI利用の便利な点は？



●文章などの作成や添削

・文章、メール、チャット、関数の作成や添削に生成AIを活用することで非常に便利と感じる

●業務の効率化

・これまで１つずつ情報を自分でサイトで調べる必要があったが、今は生成AIで欲しい情報を推測し、翻訳や計算の検索結果を教えてくれる

・仕事の時間短縮につながった

・ビジネスの場面における文章の言い回しを考えてくれて、相手の気持ちを配慮しての文面作成ができる

●生成AIを活用して世の中をうまく渡る

・苦手なことを生成AIが補完してくれる

・上司に相談する前に、AIに相談ができる

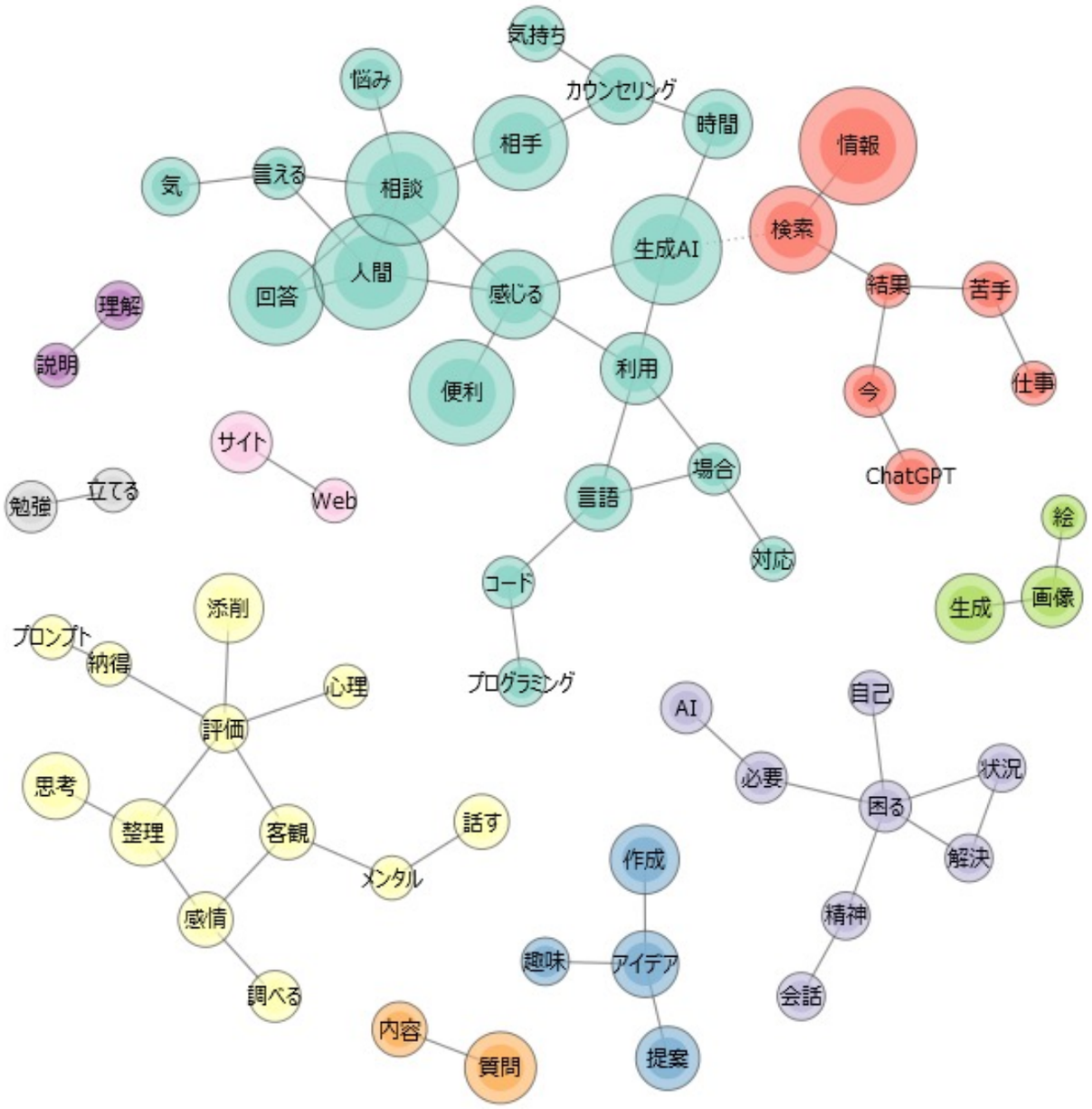
・生成AIは感情がない分、気持ちをぶつけやすい。論理的。合理的なアドバイスをくれる

・自分がどう動けばよいかわからない場合に対応方法について聞いている

仕事上の対人トラブル回避に生成AIを利用？



Q3：「仕事以外」での生成AI利用の便利な点は？



●思考や感情の整理

・自分の感情や考え方をAIに話すことで、それを客観的に整理しようとしている

・自分自身を客観的に分析できるツールとして評価

●精神的サポート

・相談相手としての生成AIの利用

・いつでも、匿名で、感情的にならずに話を聞いてくれるという人間にはない特徴

・人に話すときの、こんなことを言っていいのだろうかという人相手だからこそ気にする部分を気にしなくて良い

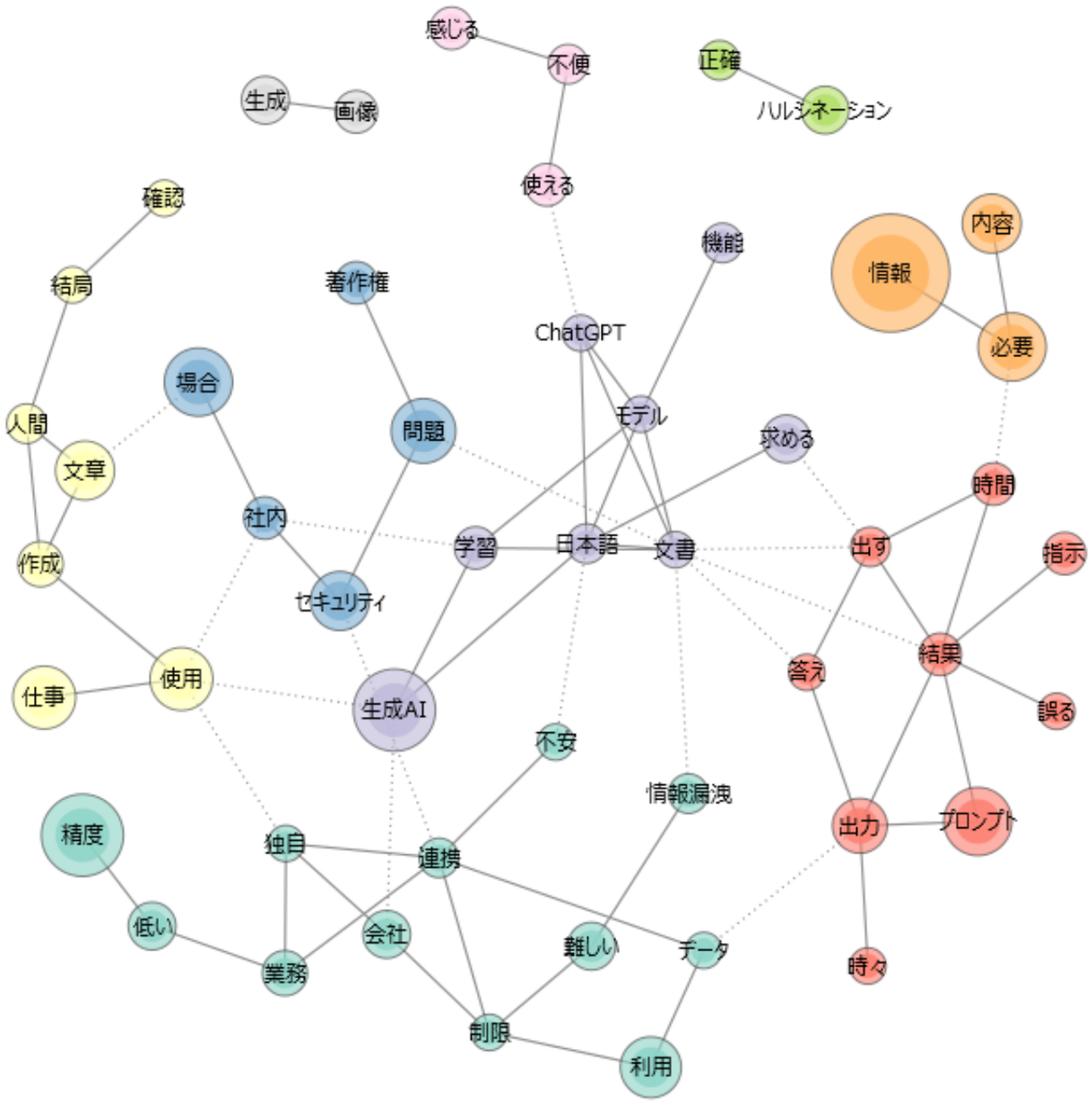
・相手の時間を奪うことに遠慮しなくて良い

・心理的な相談のハードルの低さ

仕事で生成AIを利用するよりも余計な気づかいなく話せる相談相手としての生成AIの活用が目立った



Q4：「仕事」での生成AI利用で不便な点や改善点は？



●情報漏洩や著作権侵害の恐れ

・生成AIを会社で使用する際に情報漏洩や著作権侵害の可能性がある

・セキュリティ面から自社独自の生成AIを活用しているところも

●使用するモデルでの精度の違い

・モデルによって日本語への対応状況が異なったり、有料版かどうかで、精度に違いが出たりする

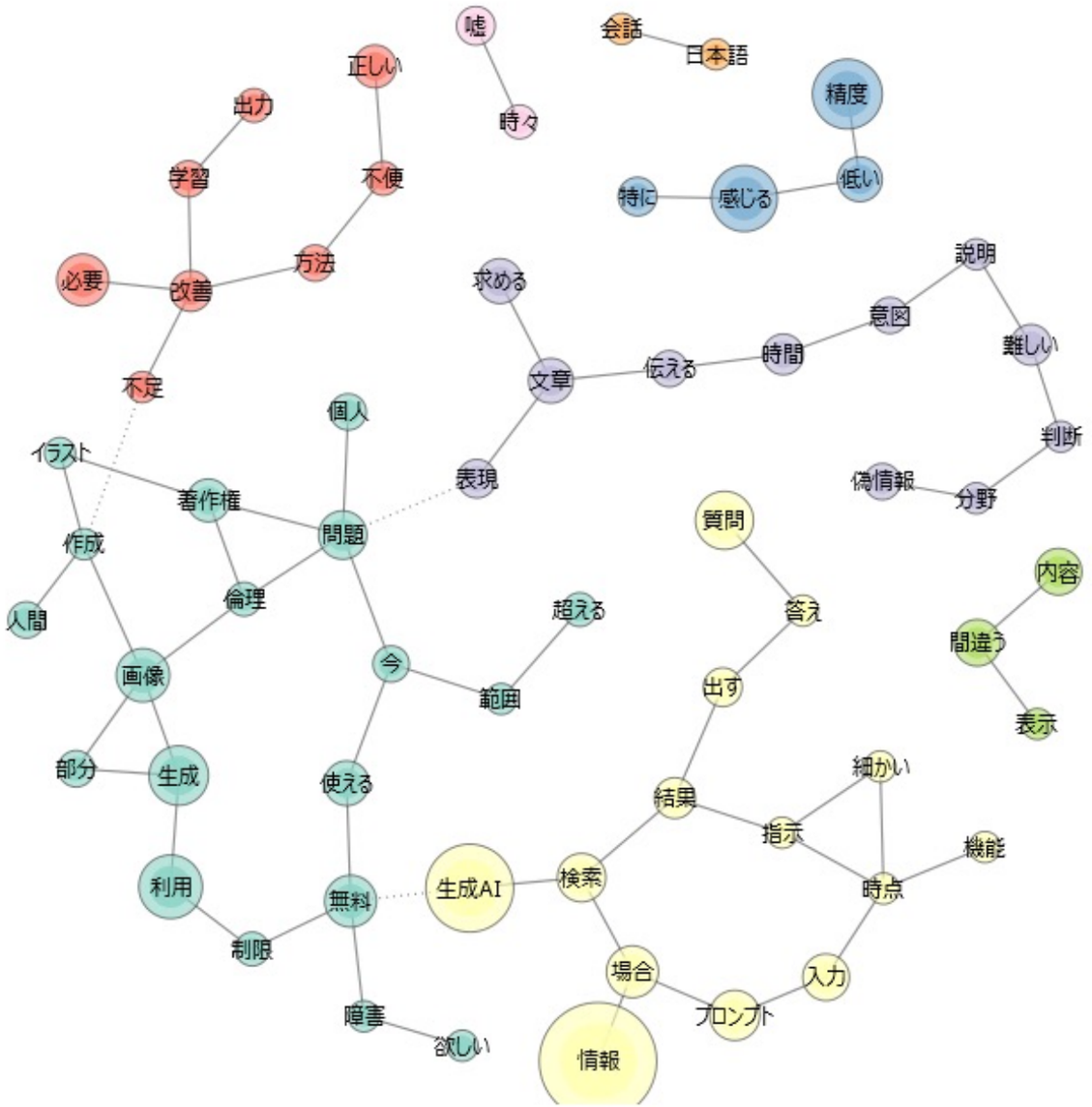
●正確な情報が得られにくい

・実際に存在しない情報を生成することもある（ハルシネーション）

●結局は人間の手による確認が必要



Q5：「仕事以外」での生成AI利用で不便な点や改善点は？



●期待した結果を出すことが難しい

・生成AIを検索の代わりとして利用するときなど、期待通りの結果が出ないことも

・細かくプロンプトを入力、指示しても、期待した答えた出ない

●精度や能力の改善

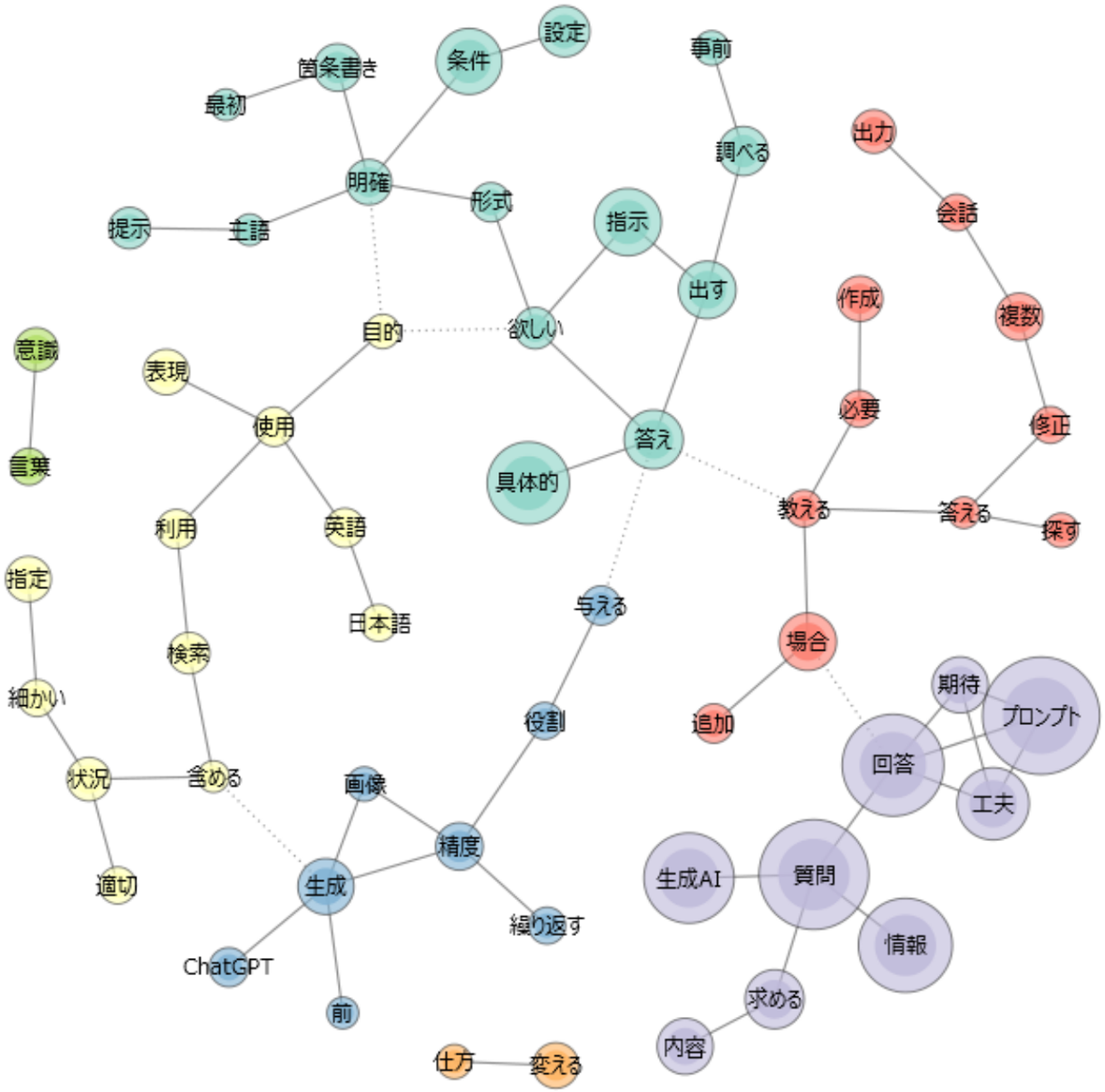
・AIの出力精度や能力の不足を感じており、さらなる学習が必要

●無料で使える範囲の制限

・無料で使える一方で、その機能や利用できる範囲に制限がかかる



Q6：生成AIを利用するときに工夫していることは？



●欲しい答えを得るために指示を出す工夫
- ・具体的にわかりやすく書く。箇条書きで書く
- ・主語を明確にする
- ・事前にプロンプト事例を調べる

●生成AI入力時に使用する表現、文面
- ・曖昧な表現は使用しない
- ・自分の立場や状況を含めて書く

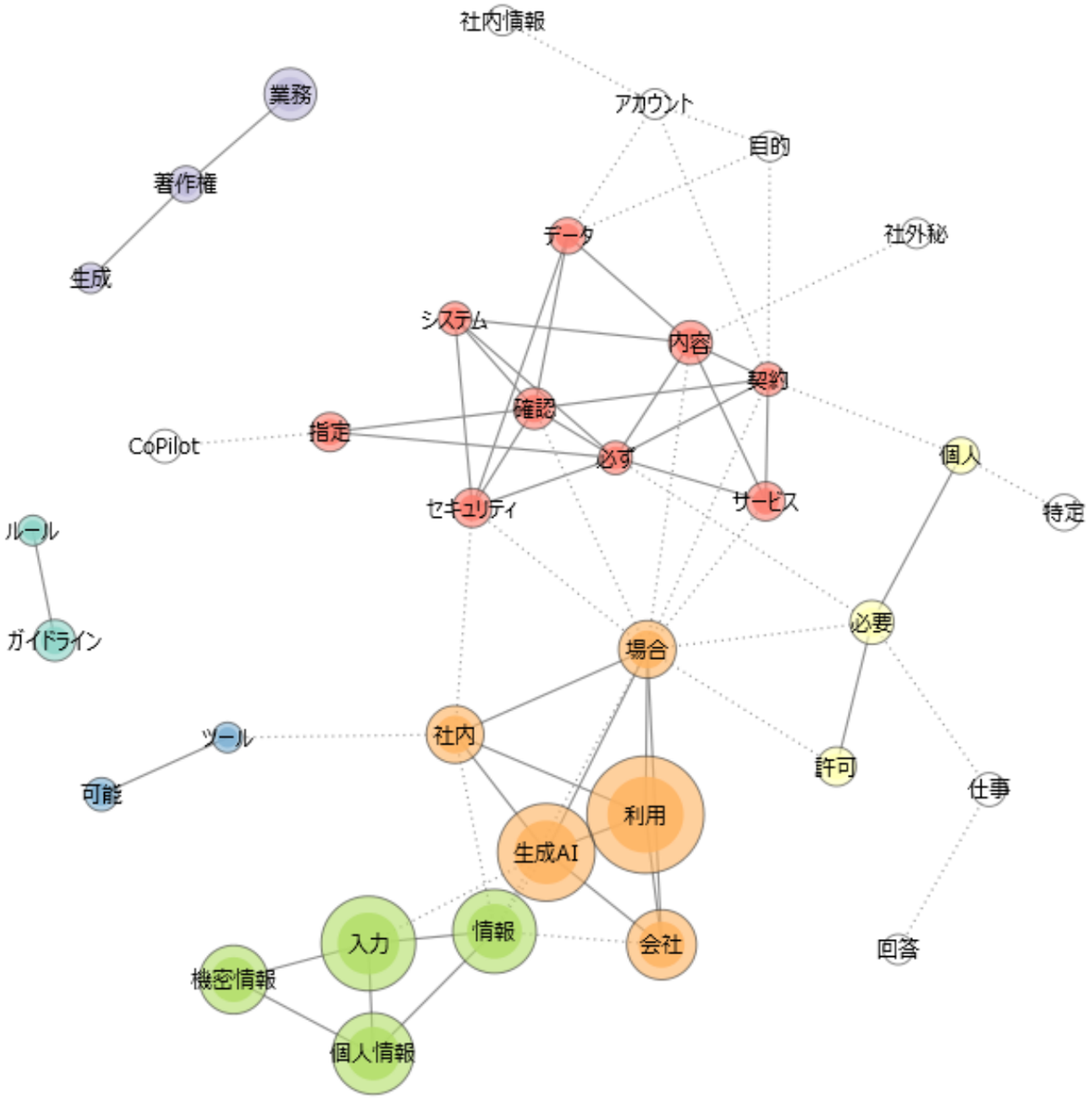
●回答に満足できないとき
- ・不十分なときに追加で質問や指示をする
- ・会話を複数回続けて精度を上げる

●精度向上の工夫
- ・生成AIに役割を与える
- ・質問を繰り返す

基本的に、発達・精神障害の有無に関わらず、
一般的な工夫が挙げられていました。
**一方で、「カウンセラー」という単語も見られ、
生成AIにカウンセラーとしての役割を与えて、
使用している方もいるようです。**



Q7：職場でのルールやガイドラインは？



●利用できる生成AIの制限

・情報漏洩につながる可能性があるため、会社独自の生成AIシステムを使わなければならない

・セキュリティ上、社内生成AIしか利用できない

●個人情報や機密情報を入力しない

・特定情報、とくに個人情報か機密情報は入力しない

・内部情報や社外秘の情報を入力しない

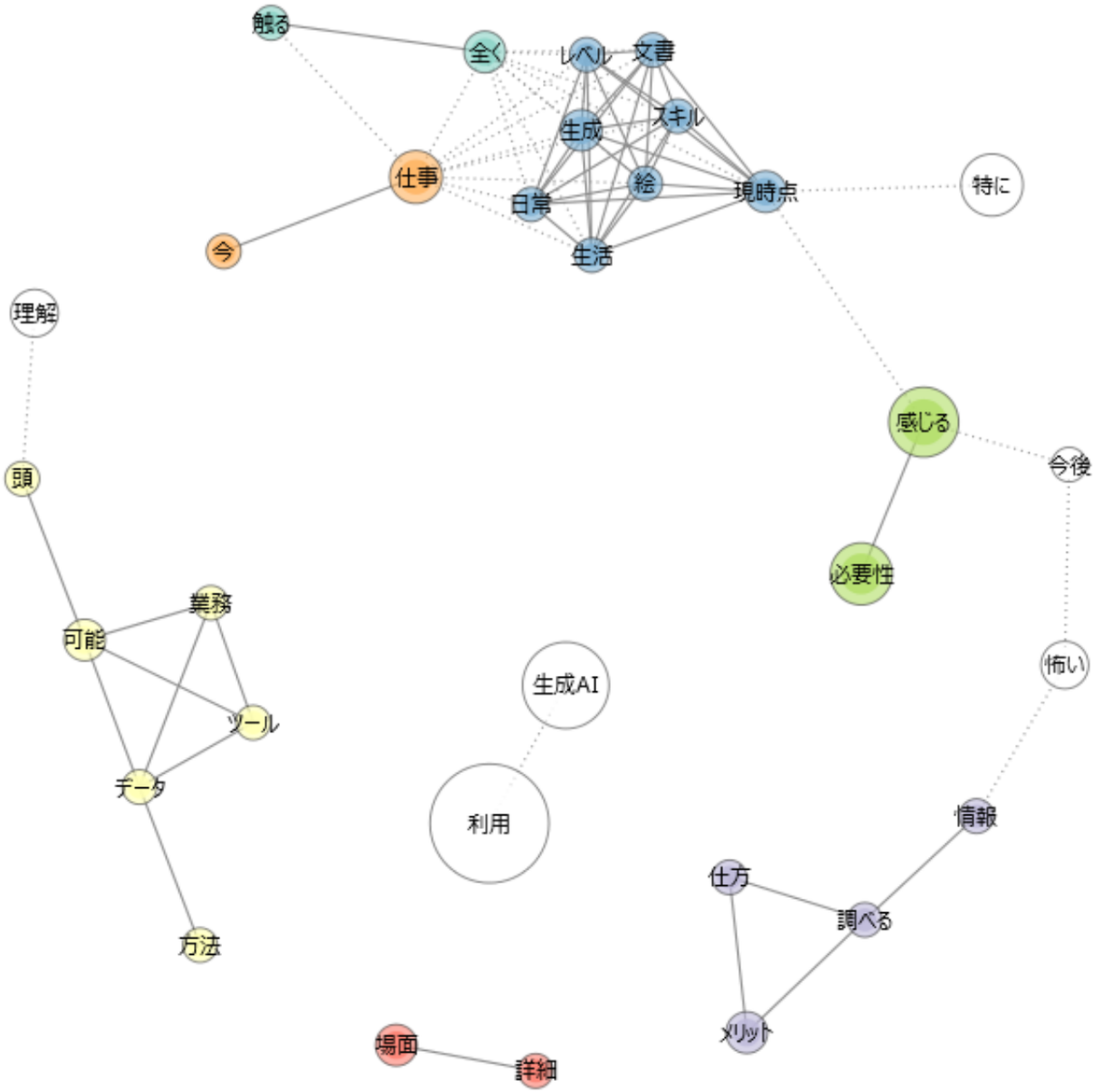
●利用する場合に許可を得る必要

・利用する際に上のスタッフに許可を取り、確認をしてもらう

・目的によっては、セキュリティ担当等に相談をする



Q8：生成AIを利用しない人の理由は？



●必要性を感じない

・使い方や内容、目的をまだ理解できていないので、必要性があれば利用する

・自分のスキルでは利用の必要性を感じない

・メリットがわからない

●使い方がわからない

・今後必須な知識・技術として必要性を感じており、興味もあるが、機械や理工系が苦手であり、手出しできず、調べもしていない

・利用の仕方を調べてもわからない

そもそも生成AIが何か、ということの理解が難しいような回答も見られました。

